

紙ふうせん

KAMIFUSEN No.83

成田市立図書館だより 第83号

2017年(平成29年)3月31日発行

編集 成田市立図書館

〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3

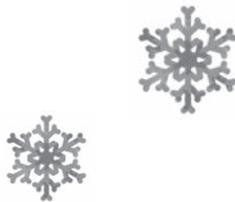
<http://www.library.city.narita.lg.jp>

☎ 0476-27-4646 (自動応答)

0476-27-2000 (直通)

FAX 0476-27-4641

2016(平成28)年12月22日、
公津の杜のクリスマスおはなし
かいがもりんぴあこうづで開催
されました。



クリスマスのおはなしを
楽しみました。



おはなしの後は、ミニ本作りに挑戦!



完成したミニ本。

(紙面紹介)

- ・文学講座 『フィクションの向こう側』
講師：辻村 深月氏(作家)・野村 豊氏(図書館協議会委員長)
- ・市史講座 『成田空港に刻まれた軌跡を歴史に「すること」と「なること」
～閣議決定50年を機に考える～』
講師：新井 勝紘氏(元専修大学文学部教授)
- ・成田市立図書館公式キャラクター ほんかり君



ほんかり君

平成28年度 図書館文学講座 2016.10.1 (土)

「フィクションの向こう側」

辻村 深月さん (作家)

野村 豊さん (成田市立図書館協議会委員長)

辻村深月さんの主な著作

『冷たい校舎の時は止まる』(講談社 2004年)

『ツナグ』(新潮社 2010年)

『鍵のない夢を見る』(文藝春秋 2012年)

『朝が来る』(文藝春秋 2015年)

『東京會館とわたし』(毎日新聞出版社 2016年)

平成28年度の文学講座は直木賞作家の辻村深月さんをお迎えしました。「フィクションの向こう側」と題して、成田市立図書館協議会委員長の野村豊さんに対談相手に、学生時代のお話、創作にまつわるお話、憧れの作家とのエピソードなど、幅広いテーマで語っていただきました。



千葉大学出身の辻村さん。「千葉は第2のふるさと」と語っていました。

兼業作家から専業作家へ

幼い頃から作家を志していたという辻村さん。

デビュー作の『冷たい校舎の時は止まる』を書き始めたのは高校3年生の時だったといいます。

その後、ミステリ研究会に入りたいという思いから千葉大学教育学部へ進学。大学在学中に書き上げた作品が第31回メフィスト賞を受賞し、デビューします。デビュー後数年間はOLをしながら作家活動を続けますが、社会人を経験して出会った人、学んだことが作家活動を続けていくうえで大いに役立ったそうです。

思い出の本と憧れの作家

講座では「私を作った5冊」として、辻村さんの思い出の本を紹介していただきました。あげていただいたのは『ドラえもん』(藤子・F・不二雄)、『十角館の殺人』(綾辻行人)、『故獲鳥の夏』(京極夏彦)、『蝶々の纏足・風葬の教室』(山田詠美)、『蒲生邸事件』(宮部みゆき)の5点。

本の紹介と共に、辻村さんと作家さんとの印象的なエピソードも語っていただきました。中学生の頃から大ファンだった綾辻先生にはファンレターを100通送って、綾辻先生から返事をもらい、「作家」という存在を初めて実感したこと。高校生の頃に参加した京極先生のサイン会では、京極先生に握手をしてもらい、その後、自身の直木賞受賞の際にも握手をしてもらって、大変感激したそうです。

『東京會館とわたし』とこれからの夢について

2016(平成28)年8月に出版された『東京會館とわたし』に関するお話もいただきました。辻村さんにとって東京會館は結婚式をあげた場所であり、直木賞の受賞会見をした思い出深い場所。受賞会見時には東京會館のスタッフの方に「お待ちしておりました。お帰りなさい」と温かく迎えてもらったそうです。東京會館は2015(平成27)年から3年間の建替え工事に入り、今度は自分が新しい東京會館を温かく迎えるような作品を作りたいという思いから、『東京會館とわたし』を書き上げたそうです。

最後に参加者からの「いまの夢は何ですか」という質問に「作家であり続けたい。そして、自分の本を読んで作家になったという人にいつか出会いたい」と答えた辻村さん。辻村さんの物語への愛情や、創作に対する情熱が感じられる講演会となりました。



資料保存の重要性を冷静に語る 新井 勝紘 氏



熱心に聞き入る参加者

市史講座 2016.11.27 (日)

『成田空港に刻まれた軌跡を歴史に「すること」と「なること」
～閣議決定50年を機に考える～』

講師 新井 勝紘 氏 (元専修大学文学部教授)

今回の市史講座は、初めて「成田空港」をテーマに取り上げました。

講師の新井勝紘先生は、近現代史がご専門で町田市史編さん室・町田市立自由民権資料館主査を経て、国立歴史民俗博物館助教授、2001（平成13）年度から専修大学文学部教授を務められ、2015（平成27）年3月に退職されました。また、成田空港地域共生委員会の歴史伝承部会、空港科学振興財団歴史伝承委員会の座長として空港問題を次世代に伝える活動に尽力され、現在「空と大地の歴史館」の名誉館長を務められています。

新井先生は、「成田の空と大地に染み込んだ歴史は、そこで生きた生活者の心身と国家的プロジェクトの完遂を目指した力とのぶつかり合いを映し出している。決定から半世紀を迎え、歴史とするか、歴史になるかの意味をともに考えてみたい」ということで講演をされました。

成田空港は、1966（昭和41）年7月4日成田市三里塚に建設されることに決まりました。その時から地域を守ろうと必死に空港の建設に反対した農家の方々やその支援者、日本のために新空港を必死に建設しようとした

人々、そして対立の周囲にいた住民たちの苦悩の歴史が始まりました。力と力がぶつかる中で犠牲も伴い、その後、建設側と反対側との公開討論を経て、成田空港問題について地域も巻き込んだ話し合いが進んでいきます。地域と空港をめぐる歴史的経緯とそこに関わった様々な立場の人々の苦悩と思いがあります。

新井先生のおっしゃる通り、これらを複眼的な視点から捉え、この地に刻まれてきた歴史をできるだけ正確に後世に伝えていくことが重要であると改めて感じました。限られた時間の中、参加者の質問にも丁寧に答えていただき終了となりました。

講演会終了後に寄せられたアンケートでは、今回も回収率が7割を超え、寄せられた様々な感想・意見からは関心の高さ・興味の深さが窺われ、有意義な講演会となりました。

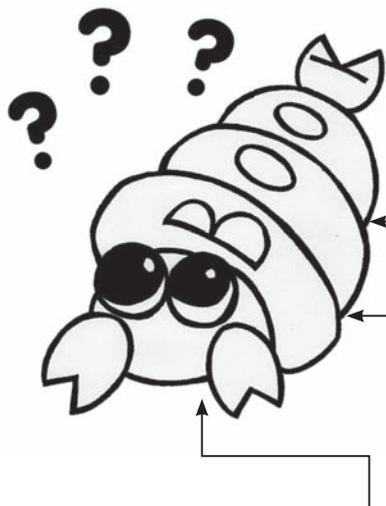
また、後日、講演会に参加された方から、ぜひ我が家に眠っている昔の資料を成田の市史編さん・市史研究に役立てて欲しいと寄贈の申し出がありました。この場をお借りし、改めてお礼申し上げます。

成田市立図書館公式キャラクター

ほんかり君



2016（平成28）年に成田市立図書館の公式キャラクターにほんかり君が就任しました。今回は皆さんにほんかり君がどんなキャラクターなのか紹介します！



①ほんかり君のプロフィールは??

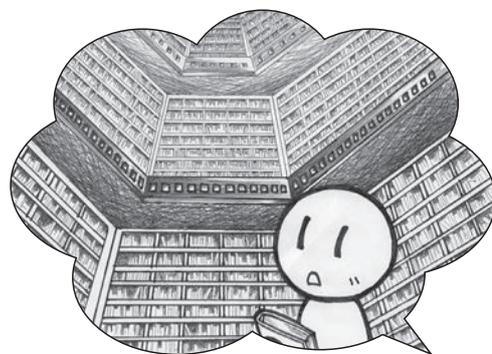
名前：ほんかり君
好きなもの：新品の本のにおい、チョココロネ
嫌いなもの：雨漏り、マヨネーズ

②ほんかり君の大きさと色は??

ほんかり君は、ヤドカリのような姿をした不思議な生き物。身体の大きさは、住んでいる図書館によって変わり、身体の色も見る人や場所によって変わるといわれています。

③ほんかり君はどこにいて、何をしているの??

ほんかり君の姿を見ることは中々できませんが、図書館に住んでいるといわれています。また、ほんかり君は普段、図書館の本を並べたり、整理したりしてくれているようです。



↑ほんかり君の貝の中は、ボルヘスの小説に登場する「バベルの図書館」のように閲覧室が無数に続いています。



図書館総合展 主催

図書館キャラクター・グランプリ 受賞歴

2015年 審査委員会賞 受賞
2016年 協賛社賞 イマキク賞 受賞
ウェブ応援賞 受賞

編集後記

毎年恒例の文学講座、市史講座には多くの方にご参加いただき、ありがとうございました。表紙に登場している「公津の杜クリスマスおはなしかい」では、ミニ本作りが行われ、参加した子どもたちに大好評でした。図書館で開催されるイベントはHP等でお知らせしています。皆さんのご参加をお待ちしております。

成田市立図書館だより No.83
発行 成田市
編集 成田市立図書館
〒286-0017 千葉県成田市赤坂 1-1-3
☎ 0476(27)2000
発行日 2017.3.31
登録番号 成教図 16-056



リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。